

地理的な見方・考え方の基礎を身につける指導の工夫

——身近な地域の学習を通して——

目 次

I	テーマの設定の理由	129
II	研究内容	130
1.	中学校社会科の目標	130
2.	地理的分野の基本的目標	131
3.	地理的分野における身近な地域の学習	131
(1)	身近な地域の学習の位置づけ	131
(2)	身近な地域の学習の意義	131
4.	地理的な見方・考え方	132
(1)	地理的な見方・考え方とは	132
(2)	地域をとらえる四つの観点	133
III	授業実践	135
1.	単元名	135
2.	単元観	135
3.	指導目標	135
4.	指導計画	136
5.	単元の展開	137
6.	本時の学習	139
(1)	本時のねらい	139
(2)	学習指導過程	139
7.	参考資料	141
8.	授業実践後の反省	145
9.	学習を終えて	146
IV	研究のまとめと今後の課題	148
V	おわりに	148
	引用・参考文献	148

浦添市立浦添中学校教諭

名 護 清 和

「地理的な見方・考え方の基礎を身につける指導の工夫」

身近な地域の学習を通して

浦添市立浦添中学校 名 護 清 和

I テーマ設定の理由

地理学習の目標とは何だろうか。多くの地名・特産物を覚えさせることなのか、それとも自然や社会にみられる事象を地理的に把握したり、解釈したりする力なのか。多くの議論がある。

中学校の新学習指導要領の地理的分野の大きな目標は、広い視野に立った我が国土の認識と地理的な見方や考え方の基礎を学ばせることの二つである。世界を大観させる学習を背景に日本の諸地域学習の理解が中心となっている。それらの学習を通して地理的事象を多面的に見て、考えることができることを目標としている。

11月に学級で実施した、社会科に関する学級のアンケートによると、社会科がきらいな生徒が約4分の1、地理がきらいな生徒が約半分となっている。女子はさらに高くなっている。きらいな理由は、「暗記することが多い」、「学習する内容が難しい」があげられている。生徒は地理を「暗記科目」と表現する。このことは地理学習の目標である地理的な見方・考え方が、生徒に十分に身につけていないことを意味するものである。

私自身の授業実践を反省してみると、

- ・教師が一方的に教える一斉授業が多かった。
- ・教科書中心の授業になり、地理的学習能力をつけるための教材を十分に準備できていなかった。
- ・知識注入の授業になり、深く考えさせる場を与えなかった。

以上のことから、地理的な見方・考え方の基礎を身につけさせるための授業改善や指導計画の必要を痛感した。

そこで、これまでの反省を踏まえて次のことを工夫したい。

- ① 野外調査を取入れ、地理的事象に直接触れる体験的な学習を設定し、発展性を持った単元づくりを行う。
- ② 生徒の主体的な学習を取り入れるなど、学習形態を工夫する。
- ③ 読図力、資料活用能力、統計を処理できる能力などの、地理的な見方・考え方の手助けとなる地理的学習能力の育成を図る教材を準備する。

このような手だてを試みることで、生徒が地理に興味を持ち、学習課題を深く追求することで、地理的分野の大きな目標である地理的な見方・考え方の基礎が身につくと考え、本テーマを設定した。

II 研究内容

1. 中学校社会科の目標

様々な角度や国際的視野からの3分野の目標が示されている。それぞれの目標が達成されることで、中学校社会科の最終目標である公民的な資質の育成をめざしている。

広い視野に立って、我が国の国土と歴史に対する理解を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

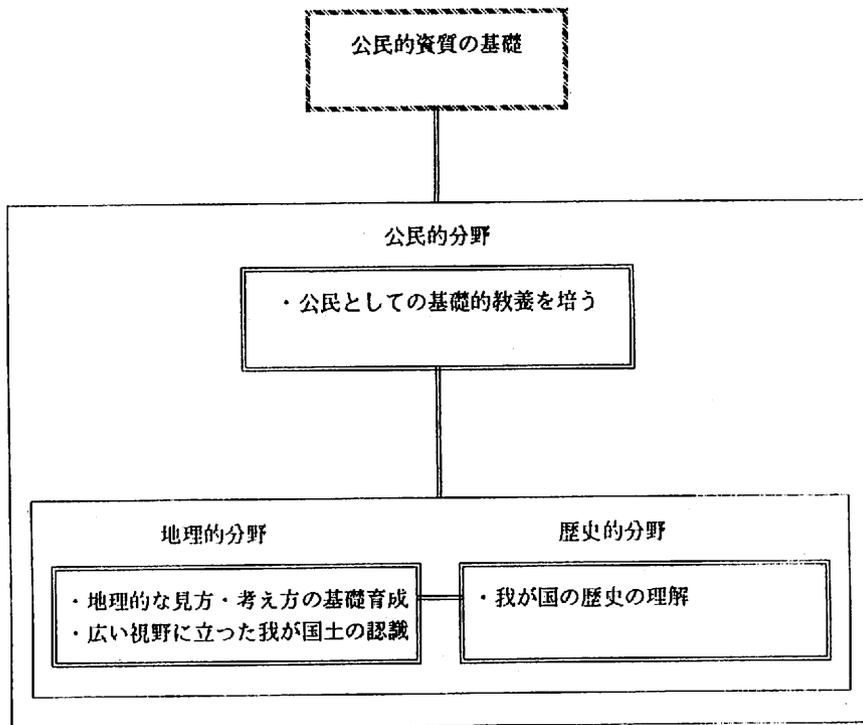


図1 中学校社会科の構造図

中学校社会科の目標を構造化すると図1のようになる。地理的分野と歴史的分野を1・2学年で並行学習し、その学習の上に3学年では公民的分野を学習することになっている。これらの学習では、社会的事象の認識と、その学習を通して目指す目標がある。

2. 地理的分野の基本的目標

目標は大きく、広い視野に立った我が国の理解と地理的な見方・考え方の基礎を学ぶことに分かれる。小・中・高等学校の一貫性から、学習の中心を日本においてある。

世界を大観させる学習を背景に、日本の様々な地域についての理解を深めることにより、地理的な見方や考えの基礎を培い、広い視野に立った我が国の国土に対する認識を養う。

3. 地理的分野における身近な地域の学習

(1) 身近な地域の学習の位置づけ

中学校における「身近な地域」は「日本とその諸地域」の中の中項目として位置付けられている。「身近な地域」の学習のねらいは、直接的な観察や調査を通じた地域的特色の理解(目的概念)と、それらの学習を通して地理的な見方や考え方の基礎を培う(方法概念)の二つである。さらに、この学習で培った地理的な見方・考え方が「日本の諸地域」の学習の中で活用され、深まるように期待されている。

地理的分野(5)では、「地域調査などの具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的に考察し公正に判断する能力と態度を育てる。」と示されている。この目標は、まさに「身近な地域」に期待されるものといえよう。

(2) 身近な地域の学習の意義

身近な地域の学習を二つの視点から進めていくなかで、そのねらいが十分に達成できなければならない。

この身近な地域を学習する意義は何であろうか。いくつか挙げてみたい。

- ① 生徒が直接体験できる学習である。地理的事象を自分の目で観察することができ、自分の手と足で直接的に資料の入手が可能である。
- ② 野外観察・調査は、自分の生活する地域を学習するということで、生徒の興味・関心を抱かせることができる。
- ③ 身近な地域を学習し、理解することによって、自分の住む地域に愛着を持つとともに、地域社会の一員としての自覚もできる。
- ④ 野外観察・調査を実施することで、生徒中心の主体的な学習の展開ができ、意欲的な学習が期待できる。
- ⑤ 地理的事象に直接的に触れられる唯一の地域である。そのため、他の地域ではできない地理的事象を地図やその他の資料を使って確認できる。
- ⑥ 地理的な見方・考え方を身につけるための、地理的学習能力の育成にとって、最もその成果が期待される単元である。

この単元で学習した成果が、「日本の諸地域」で活用できるという意味で、地理的分野の学習にとっては欠くことのできないものである。

4. 地理的見方・考え方

(1) 地理的見方・考え方とは

中学校の地理学習における地理的見方・考え方については、今回改訂された中学校新学習指導要領の目標の中で示されている。それをまとめて見ると次のようになる。

- ① 地域的特色を成り立たせている地理的諸条件を考える。
- ② 地域の人々の生活における事象を、地方的特殊性と一般的共通性からとらえる。
- ③ 日本や世界の大小様々な地域のまとまりと、その地域間の関係について考える。
- ④ 地域の変容に気づかせ、環境や資源と人々の生活との関わりを考えさせる。

地域をあらゆる角度からとらえ、人々の生活との関わりを重視しているといえる。

地理的見方・考え方の基礎を育成するものとして、地域調査などを通じた体験的学習や作業的学習を一層重視している。

地理的見方・考え方と地理的分野の大項目との関わりを構造化すると次の図になる。

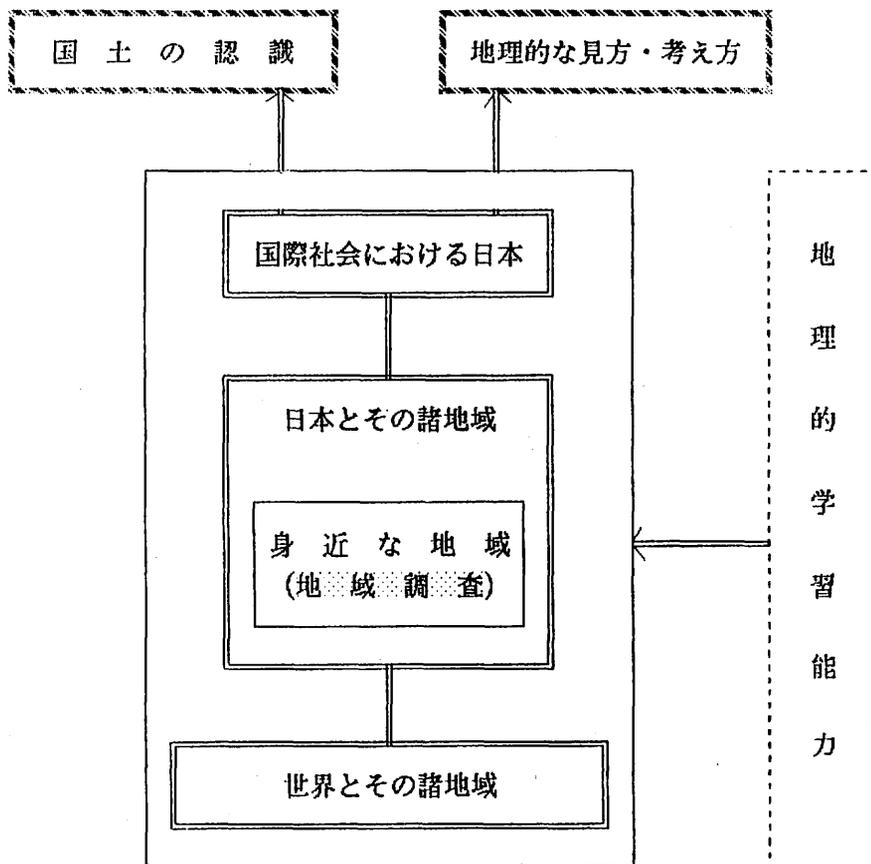


図2 地理的分野の大項目と地理的見方・考え方の構造図

地理的分野の学習は、「世界とその諸地域」「日本とその諸地域」「世界の中の日本」の三つの大項目から構成されている。小・中・高等学校の一貫性から、学習の中心は日本においてある。その日本の大項目の中に身近な地域の学習は位置づけられる。

学習が進められ、最終的に到達するのが二つの目標である。地理的な見方・考え方を育成するものとして、地理的学習能力の補助がある。地理的学習が発展していく中で、地理的学習能力の補助を受け、地理的見方・考え方の基礎が身についていくと考えられる。そうすることで、自分の生活している地域の地理的事象にも興味を持ち、その事象をあらゆる角度から追求し、とらえることができる生徒が育つものと思われる。

地理学習にとって重要な能力は多くあるが、その中でも特に重要なのは読図力、作図力、統計を処理する能力であろう。日頃の地理学習から、地図と統計に関する能力は必要不可欠なものである。

地理的学習能力をまとめると、次のようになる。

- | | |
|------------------|------------------------|
| ・読図力 | ・統計処理能力（計数処理を含む） |
| ・作図力 | ・調査聞き取り能力 |
| ・観察力（事実認識を含む） | ・仮説を立てる能力（類推を含む） |
| ・比較考察力 | ・問題発見・解決能力 |
| ・関係把握力（因果関係を含む） | ・総合判断力（再構成し結論付ける能力も含む） |
| ・資料活用能力（読み取りを含む） | |

これらの能力は、小学校から中学校、高等学校へと学習が進められていく中で、さらに深化され、拡充されていく。地理的学習能力が発達していくには、それぞれの発達段階における適切な教材の準備が必要であり、また、指導計画の改善も必要である。

(2) 地域をとらえる四つの観点

日本の諸地域の学習を進める際の四つの観点が、指導要領に示されている。四つの観点（窓）は「自然と人々」、「産業と地域」、「居住と生活」、「地域の結び付きと変化」の項目である。学習が理解しやすいように内容を精選し、構成できるように示されたものである。

この観点を利用し、身近な地域から日本の諸地域学習までを発展させて扱える指導計画を立てることによって、生徒の地域をとらえる目も培われてくるだろう。それが、さらには地理的な見方・考え方につながると思われる。

次ページに示した図は、四つの窓から身近な地域である浦添市、沖縄県、そして九州地方までを発展させた指導計画である。学習形態を工夫した課題解決学習を取入れ、生徒の主体的な学習が展開されるよう配慮した。浦添市で六つの学習課題から選択する小集団学習を計画した。沖縄県では、四つの学習課題を選択し、ペアで学習する。単元としては、ここで終了するが、この学習で培った学習能力や地理的見方・考え方がさらに深化・拡充されて、身につくであろう。

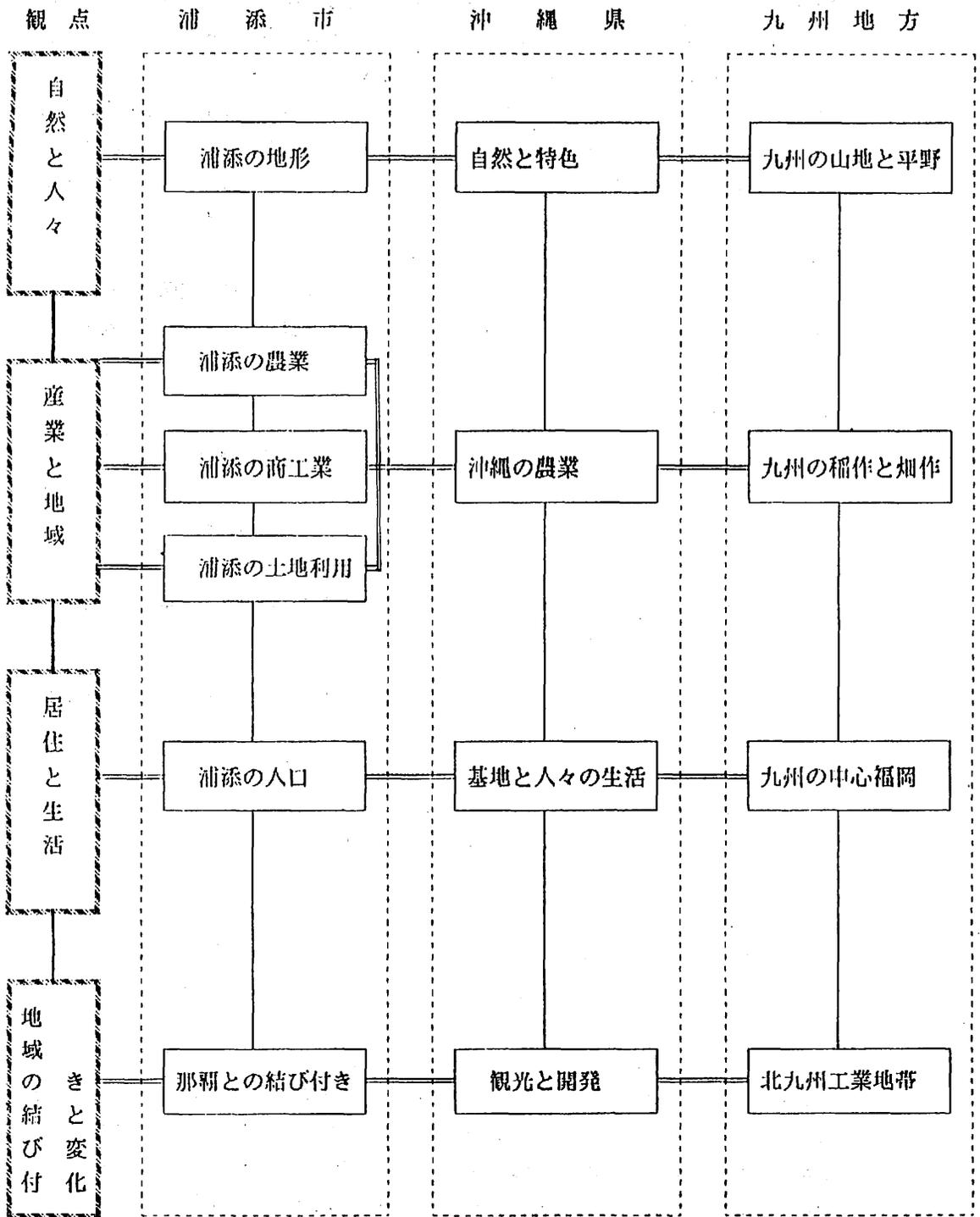


図3 4つの観点(窓)を基にした学習指導計画

Ⅲ 授業実践例

社会科学習指導案

日 時	平成3年11月28日(木) 4校時
学 級	1年7組 男子19名, 女子18名
指導者	名 護 清 和

1. 単元名 「身近な地域の観察と調査」

2. 単元観

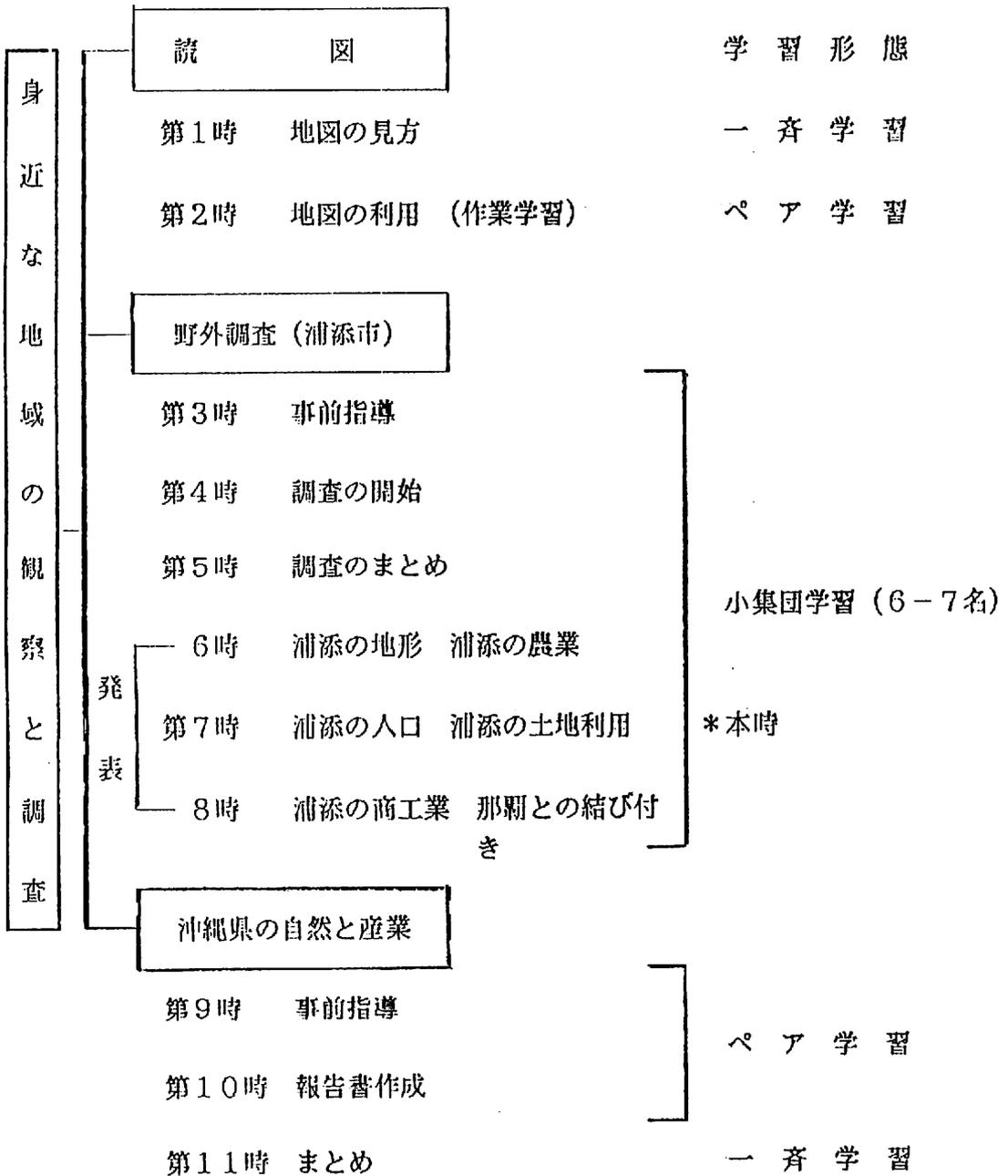
本単元は、「日本とその諸地域」の最初の方に位置づけられている。ここでは、生徒が生活する身近な地域を日本の諸地域の一部としてとらえ、「日本の諸地域」の学習と関連付け、その特色を理解させる。この学習では観察や調査等の活動と読図を通して身近な地域の特色を理解すること(目的概念)と地理的な見方や考え方の基礎を培う(方法概念)の2つのねらいから成り立っており、ここでの学習が「日本の諸地域」の学習につなげられるよう工夫することが大切である。

この単元では、実際に自分の住んでいる地域の地理的事象(自然・人口・産業・土地利用等)を直接調査し、まとめることによって、地理的な見方・考え方が身につくように教材を構成した。

3. 指導目標

- (1) 地図の縮尺ときまりを理解させ、作業や野外調査を通して地図の活用の仕方について考えさせる。
- (2) 野外観察の基本的な心がまえ・ねらい・方法について理解させる。
- (3) 資料の収集とその活用の仕方を考えさせ、その資料に基づき適切な判断をする能力の基礎を養う。
- (4) 自分の住む地域の特色について理解を深め、関心を高めさせる。
- (5) 野外調査を実施し、まとめることによって、地理的な見方・考え方の基礎を身につける。

4. 指導計画



5. 単元の展開

学 習 内 容	学 習 活 動	育成する能力	学習形態
地図の見方	<ul style="list-style-type: none"> ・等高線，縮尺，方位，地図の記号について理解させる ・いろいろな地図があることに気づかせそれぞれの目的を理解させる。 	読図力	一斉学習
地図の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・浦添市の2万5千分の1の地形図を使い，自分の家や学校をさがす。 ・家から学校までの通学路を記入する。 ・学校の高度を予想し，調べる。 ・50m，100mの等高線を引き，色ぬりをする。 ・浦添市の地形のようすを読み取らせる ・土地利用のようすを読み取らせる。 	読図力 作図力	ペア学習 (2人)
野外調査の事前 指導(浦添市)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループづくりをおこなう。 ・学習課題を選択する。 ・学習課題の予想を立てる。 	仮説を立てる能力 問題発見・解決能力 読図能力	小集団学習 (6人)
A 浦添の農業	<ul style="list-style-type: none"> ・野外調査の計画を立てる。 (項目・方法・地域・日程) 		
B 浦添の人口			
C 浦添の土地 利用			
D 浦添の地形			
E 浦添の商工 業			
F 那覇との結 びつき			
野外調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取り ・資料収集 ・観察 ・見学 	読図能力 観察力 調査聞き取り能力	

学 習 内 容	学 習 活 動	育成する能力	学習形態
野外調査のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた資料を整理し、まとめる。 ・調査の結果をレポートにまとめる。 ・発表の資料を作成する。 ・発表の仕方を話し合わせる。 	作図力 比較考察力 関係把握力 資料活用能力 統計処理能力 問題発見・解決力 総合的判断力	小集団学習
調査結果の発表	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達のグループの調査結果をまとめて学級で発表させる。 ・他のグループの発表を開いて理解する ・他のグループの発表の評価をさせる。 		
沖縄県の産業と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方について説明をおこなう ・自分の学習課題を設定させる。 ・学習計画を立てさせる。 ・調べ学習を開始する。 ・レポートを集めた資料を基にまとめさせる。 	仮説をたてる能力 問題発見・解決能力 読図能力 作図力 比較考察力 関係把握力 資料活用能力 統計処理能力 総合的判断力	ペア学習 (2人)
自然の特色	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県の位置を確認し、自然の特色を他の地域と比較して理解させる。 		一斉学習
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県の農業を自然条件との関わりで理解させる。 		
基地とくらし	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県の土地利用から軍事基地の存在と、その問題点を考えさせる。 		
観光と開発	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県の観光の現状を確認し、問題点について考えさせる。 		

6. 本時の学習 「浦添市の人口」

「浦添市の土地利用」

(1) 本時のねらい

- ① 浦添市の人口の特徴を理解させるとともに、人口の増加の要因について気づくことができる。
- ② 浦添市の土地利用の特色を理解し、その問題点をとらえさせることができる。

(2) 学習指導過程

学習内容	学 習 活 動		指導上の留意点	資 料
	生徒の活動	教師の活動		
前時の学習の反省	説明を聞く	発表の仕方、聞く態度について確認する	注意だけにならないように気を付ける。	
本時の学習の確認	学習課題を確認する	学習課題とグループの確認を行う	板書で確認	発表グループのレポート
浦添市の人口	発表をおこなう		全員で役割分担させる。	掲示用図表
人口の変化	学習課題1		メモを取って開かせる。	TPシート
年代別人口	浦添市の人口はどう変容しているか。			
人口集中地区	質問をする		質問できるようにしっかり聞かせる。	
人口集中地区	評価をおこなう			

学習内容	学 習 活 動		指導上の留意点	資 料
	生徒の活動	教師の活動		
浦添市の土地利用 土地利用のよう す 土地利用の変化	発表をおこなう 学習課題2 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 浦添市の土地利 用はどんな特色 があるか。 </div> 質問をする 評価をおこなう	 評価する	いろいろな観点か ら客観的に評価さ せる。	
浦添市の人口増加 の要因 浦添市の土地利用 の問題点	説明を聞いて、理解 を深めさせる。	今日の発表の評価を し、補足説明を行っ て課題を深める。 次回の学習課題を確 認する	生徒の発表の繰り 返しにならないよ う気をつける。	TPシート 都市計画図

アドバイスシート

1. 調査方法がわからない人

- ・テーマと調査結果を確認したり、予想したりして、調査方法を考えてみる。
- ・調査時間を考えて、文献から調べられることや仲間との役割分担、フィールドの調査範囲、フィールドで可能な調査をよく考えてみる。
- ・調査項目をはっきりさせる。そして、手順を考え、調査表を作ってみる。
- ・先輩や友達の調査方法も参考にしてみる。
- ・先生に聞いてみる。
- ・新しく、正確なデータを入手するための工夫をする。

2. フィールドへ出るとき

- ・フィールドへ出る事前の準備が最も大切である。
調査範囲や調査ルートをはっきりさせておく。
地形図、調査表、メモ用紙などの準備を忘れない。
調査項目、調査場所を確認しておく。
調査時間を考えておく。
- ・事後の整理をきちんとする。
調査のデータを早く集計しておく。
再調査の必要がないか確認する。

3. 調査結果をうまくまとめられない人

- ・表やグラフ、図を使いわかりやすくまとめる。
- ・つかんだ事実と感想、予想などを区別しておく。
- ・目的に応じて資料の表現方法や活用を工夫する。
- ・表やグラフ図の目盛り、単位、方位、縮尺をしっかりと記入する。

資料3 発表用レポート

社会科調査レポート

1年7組 白鷺メンバー

照喜名 皇明・皇皇 裕統・秋原 和也
 仲宗根 寿江・金冢 真優美・玉城 礼子

1. 学習課題

浦添市の人口について

2. 課題の手続き
 ・人口は年々ふえていると思う。

3. 調査の進め方

・資料集め (図書館、市役所)

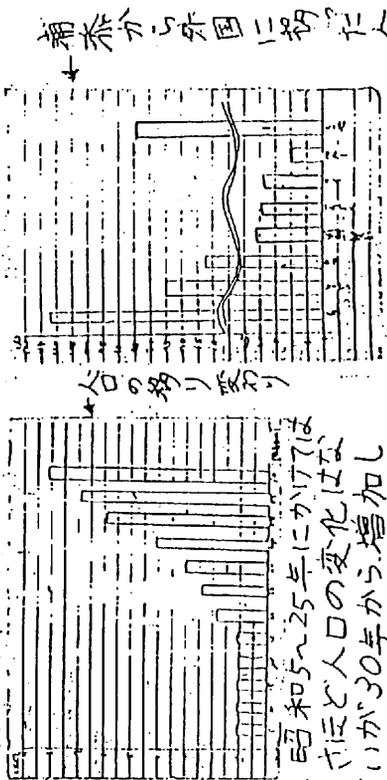
・全人口・年齢別・多別人口

・浦添市から外国に移った人口

・浦添への転入・転出

4. 調査内容

1. 浦添市人口 — 91,702人 (平成3年10月末現在)



昭和50年~25年にかけては
 ほとんど人口の変化はな
 いが30年から増加し
 始めた

浦添から外国に移った人

人の移り変わり

・本市への転入・転出

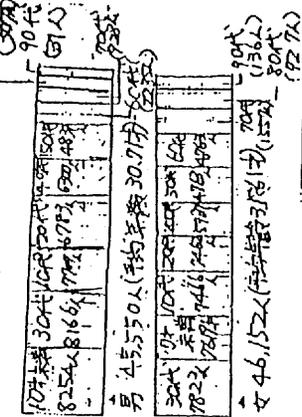
(県内) 浦添市 転入 2,099人

1位 那覇市 転出 1,595人

2位 宮野湾市 転入 495人

転出 878人

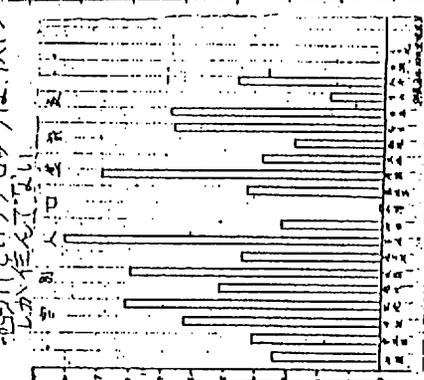
・年齢別人口



(県外) 一都道府県
 1位 東京都 転入 406人
 転出 513人
 2位 福岡県 転入 242人
 転出 272人

・性別人口

宮城が一方向的に多いが
 西州とワウブロッフは、(男)
 しか少ないらしい



7. まとめ

・性別人口を調べ、みんなの知らなかった地域があり
 人数が少ないうつことわかった。

8. 反省と感想

・調査の人が全員そろった時間が少なかったため、協力してまとめ
 ることができなかった。

9. 参考文献

統計ウラズ

資料4 評価用紙

グループ発表評価表 1年7組 5番氏名 金城真優美

グループ名	どんな事がわかったか	内容	発表態度	資料	質疑応答	班員協力	声量
D 浦添の地形	浦添市にサーカスという土が めることがわかった。 その性質もわかった。	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D
B A 浦添の農業	日々機械化してきた。 農家の人数がへつ きている。	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D
A B 浦添の人口		A B C D	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D
C 浦添の土地 利用	畑などが少なくなって 宅地が多くなっている。	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D
F 浦添の商工 業	工場や商店がふえて大きくな っている。	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D
E 那覇市との 結び付き	那覇市との結びつきがよくま とめられてわかりやすかった。 那覇市から浦添への転入が 多いことがわかった。	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D

8. 授業実践後の反省

授業者の反省

小集団でおこなう課題解決学習は、今学年度は初めての取り組みであった。

この学習を通して、即地理的な見方・考え方の基礎が身につけることは大変難しい。しかし、少しでもテーマに近づくことを目標に実施した。

教材の面からみると、浦添市の地理的事象を取りあげて教材化を行った。課題設定については教師の方で準備し、選択させた。生徒の主体的な学習を進めるためにも、生徒の中から課題を設定できるところまで高めることが必要であろう。そして、生徒に資料を収集させるだけでなく、教師の方でも準備し、生徒に提示することも必要だと感じた。課題解決学習の授業にしても、資料の見方や活用の仕方でも、日頃から意識して取り入れる必要性を感じた。

男女各3人の6人グループ、計6グループで学習活動を行ったが、積極的に生徒を参加させる面からも4人がよかったと思う。実際の調査活動における参加は、以外にも社会科がきらいの多い女子の方が積極的で、男子の方が逆に消極的であった。リーダーを中心としたグループの指導も多に反省される。特に、生徒が行う学習計画の段階で生徒一人一人の役割分担を十分に指導できなかった。このことが調査活動参加への個人差が出てきた原因であろう。

地理的な見方・考え方の基礎を身につけたかどうかは、1時間の授業や1単元の指導計画だけでは判断しにくい。常にそれを意識した授業の工夫が必要であろう。

感想や意見

よかった点

- ・生徒がよく調べている。
- ・生徒中心の主体的な課題解決学習を設定している。
- ・読図の指導が充分に行われている。
- ・発表の資料がうまくまとめられている。

改善点

- ・この学習のねらいが生徒に十分に伝わっていかなかったと思われる。なぜこの学習を行うのか、何を学ぶのか。目的意識をもたず指導が欠けていたと思われる。
- ・資料を活用をもっと深めてはどうだろうか。
- ・もっと活発な質問が出るように、教師の方から仕掛けてはどうか。
- ・補足と説明の時間では、教師がしゃべりやすすぎて、自分で進めている感じがする。
- ・発表グループ以外の生徒、特に男子の学習への参加が消極的である。
- ・土地利用では、埋め立てと関連して未来のビジョンまで生徒に出させたらおもしろいと思う。
- ・発表における表現力も必要である。
- ・予想の立て方が弱く、予想を裏付ける資料の活用が不足している。
- ・資料の見方の指導が必要。

9. 学習を終えて

身近な地域の学習を終えて、この学習の反省と生徒の感想を書いてもらった。

学習を終えての反省 (男子14人。女子18人) アンケート実施 12月5日

- (1) この学習についてどう思いましたか。
- | | | |
|-----------|-------|--------------|
| ア おもしろかった | イ ふつう | ウ おもしろくなかった。 |
| (11人) | (18人) | (2人) |
- (2) この学習を通して、あなたの地理学習に対する考え方はどう変わりましたか。
- | | | |
|------------|-------------|-----------|
| ア 興味が出てきた。 | イ あまり変わらない。 | ウ きらいになった |
| (5人) | (26人) | (0人) |
- (3) 地図の見方がわかり、活用の仕方がわかりましたか。
- | | | |
|-----------|-------|-----------|
| ア よくわかった。 | イ ふつう | ウ わからなかった |
| (7人) | (17人) | (7人) |
- (4) 野外調査について理解できましたか。
- | | | |
|----------|-------|-----------|
| ア よくわかった | イ ふつう | ウ わからなかった |
| (9人) | (18人) | (4人) |
- (5) 資料を集めたり、その活用の仕方がわかった。
- | | | |
|----------|-------|-----------|
| ア よくわかった | イ ふつう | ウ わからなかった |
| (13人) | (18人) | (2人) |
- (6) 浦添市についてよく理解できましたか。
- | | | |
|----------|-------|-----------|
| ア よくわかった | イ ふつう | ウ わからなかった |
| (18人) | (15人) | (0人) |

浦添市についての理解については、ある程度理解を深められた。しかし、学習に対する興味づけが足りなかったと思われる。地図の見方や資料の活用にしても理解が不十分と言える。以外に女子の方が野外調査を持っているのがおもしろい。

生徒の感想

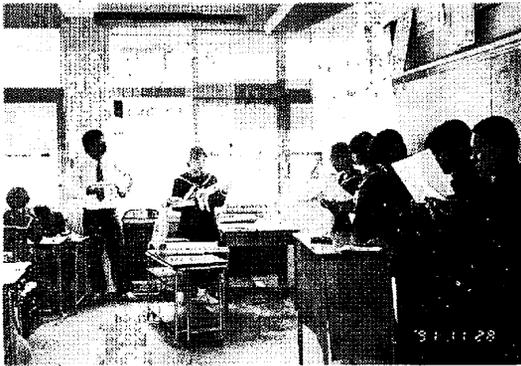
野外調査を終えての感想

浦添市のことの方が前よりもわかった。資料を集めたりするには、市立図書館へ行ったり、市役所へ行って調べてやることなどもわかった。

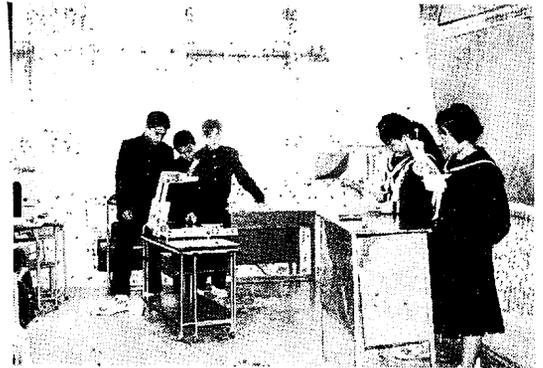
野外調査を終えての感想

資料をまとめたり、それをグラフにしたりするのは、たいへん
だったけど、発表してみると、私達だけで、こんなに
多量のことが調べることができるということを知り
よかったと思いました

授業風景



(発表のようす)



(発表のようす)



(教師の補足説明)



(発表のようす)

IV 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

地理的な見方・考え方の基礎を身につける、という大きなテーマで研究を進めてきた。それをまとめてみると次のようになった。

- ① 身近な地域から九州まで、学習形態を工夫し、発展性を持った学習指導計画を立てることができた。
- ② 生徒が自分の住む地域に対しての、理解を深める学習指導が実施できた。
- ③ 身近な地域の学習において、野外調査を取り入れることで、地理的な見方・考え方の手助けとなる、地理的学習能力の育成を図ることができた。

(2) 今後の課題

- ① 生徒の実態に合わせた授業の工夫していきたい。
- ② 地理的な見方考え方は一単元の指導計画では、その効果は図りにくい。それを意識した年間指導計画の作成が必要である。

V おわりに

現任校に採用されてから、時間を掛けてじっくりと教材を研究し、自信を持って授業に臨むことができないまま6年目になる。今回の研修でその課題であった理論と教材研究を深めることができました。

この4カ月の研修期間を与えて下さいました浦添市教育委員会、温かく励まして下さいました福山所長をはじめとする研究所の方々、ご指導して載いた知念政俊指導主事をはじめ、各指導主事の皆さんに深く感謝申し上げます。

<引用・参考文献>

高山昌之編	「地理的分野の授業理論」	明治図書
川合元彦著	「生活の場の見方・考え方」	古今書院
波澤文隆編	「興味・関心を高める身近な地域の指導」	明治図書
古今書院	「地理」 1981年2月号	
柿沼利昭編	「中学校学習指導要領の展開 社会科編」	明治図書
浦添市教育委員会編	「のびゆく浦添市」3年・4年	
読谷中学校	「社会科実践研究報告書」	
琉球大学附属中学校	「研究紀要 第2集」	